

# ウルトラトレイル・マウントフジ2022 全体説明会議事録

日 時：2021年9月30日（木）15：00～17：40

会 場：ハイランドリゾート ホテル&スパ 地下1階 バンケットルーム「芙蓉」

出席者：

## ウルトラトレイル・マウントフジ2022 全体説明会 出席者名簿

2021年9月30日

No	所属・部署	氏名	
1	環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官	齋藤 天道様	
2	富士吉田警察署 交通課	柳澤 裕貴様	
3	富士五湖消防本部	羽田 満幸様	
4		堀内 吉輝様	
5	日本野鳥の会 南富士支部 保護部	望月 近美様	
6	富士山西麓観光資源“輝き”協議会 会長	赤池 宏文様	
7	環境省 希少野生動植物種保存推進員	半場 良一様	
8	ネイチャーナビ	秋元 芳武様	
9		舟津川 由利様	
10	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 大会会長 NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 代表理事	鎌木 毅	
11	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表	福田 六花	
12	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 株式会社ソトエ代表取締役プロデューサー	千葉 達雄	
13	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 一般財団法人アールビーズスポーツ財団	岡嶋 智己	
14	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 リージョンポート合同会社 代表	田近 義博	
15	リージョンポート合同会社	関谷 正太郎	
16	一般財団法人アールビーズスポーツ財団	岩谷 忠彦	
17	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会事務局	秋本 康晴	
18	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会事務局	佐藤 和	
【リモート出席】			
19	環境省 富士五湖管理官事務所 アクティブレンジャー	小西 美緒	
20	環境省 沼津管理官事務所 自然保護管補佐	刑部 美鈴様	
21	静岡県 暮らし環境部 環境局 自然保護課	望月 靖郎様	
22		花城 啓太様	
23	静岡県 東部農林事務所 森林整備課	堤 真一様	
24	山梨県 環境・エネルギー部 自然共生推進課	前島 みどり様	
25	富士山エコレンジャー連絡会	吉永 耕一様	
26	公益財団法人 日本野鳥保護連盟	藤井 幹様	
27		松永 聡美様	
28		葉山 嘉一様	
29	認定特定非営利活動法人 富士山クラブ	佐伯 弘美様	
30		荒井 みずき様	
31	株式会社時之栖	加藤 弘一朗様	
32	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 アドバイザー NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 理事	三浦 務	
33	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 アドバイザー NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 理事	中尾 益巳	
34	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局	神谷 知里	
35	富士市	スポーツ振興課	市川 洋介
36		影山 智海	
37	富士宮市	スポーツ振興課	佐野 哲也
38		産業振興部観光課	市川 和彦
39	身延町	企画政策課	村松 雅恵
40		企業組合みのぶ地域振興Link300	若林 由美
41	鳴沢村	教育委員会	渡邊 龍
42	富士河口湖町	生涯学習課	渡辺 一充
43	御殿場市	2020オリンピックパラリンピック課	芹澤 龍宏
44		2020オリンピックパラリンピック課	東 良哉

議 題：

(1) 2022大会運営計画説明

- ・大会概要について
- ・新型コロナウイルス感染防止対策について
- ・新コースについて
- ・安全管理体制及びコースの迂回について
- ・自然環境に配慮した持続可能な大会運営のために

(2) 質疑応答／その他

<大会会長あいさつ 鈴木>

本日は台風16号が接近する中お時間をお取り頂きまして本当にありがとうございます。10月1日より全国的に発令されていた緊急事態宣言が解除になります。ニュースでも新薬の開発が発表され、スポーツ大会も少しずつ開催できる状況になっております。東京五輪、パラリンピック、箱根駅伝やだんじり祭りが開催できたのも関わる人たちの想いの強さが重要だったと思います。ウルトラトレイル・マウントフジ2022は福田六花医師の指導の下に万全な感染対策を構築しました。また開催できる可能性をできる限り高くするため開催形態を大きく変えました。来年の大会は情熱を持って開催したいと思っております。本日は概要説明、変更点を含めて詳細部分をお話させていただきます。忌憚のないご意見を賜ってUTMF2022に向けて繋げていければと思います。

(1) 2022大会運営計画説明

(配布資料「運営計画書」に沿って進行)

<共同代表 千葉>

【大会概要について】

○大会名 ウルトラトレイル・マウントフジ2022 (第10回目)

○開催日 2022年4月22日(金)～24日(日) 3日間

○競技種目

①UTMF165k

- ・距離 約165.4km 累積標高:+7,577m/-7,619m
- ・スタート時刻 4月22日(金) 14時30分～15時30分  
500名ずつ15分毎5つのウェーブで行う
- ・最終制限時刻 4月24日(日) 11時30分 (44時間制限)
- ・募集人数 2,400名

②KAI69k

- ・距離 約69.2km 累積標高:+3,638m/-3,670m
- ・スタート時刻 4月23日(土) 11時00分 (±1時間の変更の可能性あり)
- ・最終制限時刻 4月24日(日) 7時00分 (20時間制限)
- ・募集人数 480名
- ・スタート・フィニッシュ地点 富士急ハイランド
- ・UTMFの後半の69kmを巡るコース

過去のレースを全て検証した結果、KAI69kのスタート地点では約500名の方がリタイヤをしている。後半480名であれば全体の通行人数2,400名は超えずに運営できる。

#### ○参加資格

- ・エントリー時及び大会2週間前に日本に在住している人（招待選手は除く）
- ・大会14日前までに新型コロナウイルスのワクチン接種（2回）を完了または大会開催日直前（スタート72時間以内）のPCR検査陰性を証明できること。（今大会初）

以下に関しては例年通り

#### ○参加条件

- ・“8.「UTMF2022新型コロナウイルス感染防止のための運営方針」を承諾・遵守すること。”が大前提

#### ○大会中止・中断・コース変更の基準

- ・昨年は「緊急事態宣言が出た場合は中止を要請する」という内容だったが、「1.新型コロナウイルス感染拡大の影響により地元自治体からの中止要請があった場合」と変更している。

#### ○エントリー期間

- ・開催確率を高めるために募集時期を例年より2ヶ月遅らせている。

優先エントリー 2021年12月1日～12月8日（UTMF2020,21にエントリーした方）

一般エントリー 2022年1月7日～1月14日

#### ○参加費

- ・UTMF

優先エントリー 40,000円（消費税/保険料込み）

一般エントリー 40,000円（消費税/保険料込み）

- ・KAI

一般エントリー 26,000円（消費税/保険料込み）

寄付エントリー 80,000円（寄付金54,000円+参加費26,000円）

寄付先はNPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部

#### ○開催場所

富士山麓（静岡県富士市、富士宮市、山梨県身延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村）

#### ○主催

（先日の実行委員会を行い協議のうえ運営計画書に変更があり、正誤表にて確認）

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会（主催者名に変更はない）

<変更前>

NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部、富士市、富士宮市、身延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村、御殿場市、一般財団法人アールビーズスポーツ財団、リージョンポート合同会社、株式会社ソトエ

<変更後>

NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部、医師・福田六花、一般財団法人アールビーズスポーツ財団、リージョンポート合同会社、株式会社ソトエ

○主管を共催に変更（予定）

静岡県富士市、富士宮市、山梨県身延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村、御殿場市

静岡県と山梨県二つの県、九つの自治体で行っているため自治体の判断により合意形成が難しい可能性が想定される。NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部、一般財団法人アールビーズ財団、リージョンポート合同会社、株式会社ソトエ、医師福田六花がUTMF 共同事業体として主催を組み、行政が共済として役割を分けより柔軟に大会開催判断をできるように先日の実行委員会で決議された。

○スタート会場

UTMF165k 静岡県富士市 富士山こどもの国

KAI69 k 山梨県富士吉田市 富士急ハイランド・コニファーフォレスト

○無料シャトルバス 4月21日（木）、23日（土）、24日（日）に運行予定

○大会日程

①UTMF165 k

ナンバーカードの引換 4月21日（木） 12時～20時

富士急ハイランド・コニファーフォレスト、御殿場高原時之栖、JR 新富士駅  
競技 4月22日（金）～24日（日）

②KAI69 k

ナンバーカードの引換 4月22日（金） 12時～20時

富士急ハイランド・コニファーフォレスト  
競技 23日（土）、24日（日）

○表彰対象 （運営計画書）記載の通り

○コース・進行表・エイド箇所

①UTMF165 k

- ・2022年大会はエイドでのサポート行為実施で検討中
- ・ドロップバッグは1箇所（U6富士急ハイランドに設置予定）

- ・エイドは10箇所（新設U6富士急ハイランド）

## ②KAI69 k

- ・富士急ハイランド以降のUTMFコースと同じ
- ・サポート、ドロップバッグなし
- ・感染防止対策のためエイドに設けてある仮眠所利用は禁止で検討中

## ○競技規則

（運営計画書）記載の通り

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

自治体を主催から共済に変更したのはコロナの状況で運営判断に柔軟性を持たせるためとのことだが、どのような変化があるのか教えていただきたい。

<共同代表 千葉>

大会開催可否判断は全ての自治体と話をして決議をしている。コロナ禍での判断は意見が割れた。全会一致でないと決議されたことにはならないが、静岡県と山梨県の判断が変わる可能性がある。県の方針が違ふと非常に難しい。屋外で行うトレイルランニング大会はリスクは低いが県のルールがトレイルランニング大会を想定して作っているわけではない。自治体が入ると自治体の主催するイベントと同じ基準で開催判断をしなければならないと多くの意見が出た。感染対策をしっかりと国ガイドラインに全て従っていても、大きなところ（国や県）で方針が出されると従うことになるので共催の方に移動する形にした。各自治体に意見を聞かないまま(可否)判断をすることは全くない。

## 【新型コロナウイルス感染防止対策について】

（配布資料「UTMF2022新型コロナウイルス感染防止のための運営方針」に沿って進行）

今後新たなガイドラインや指針が出たら適宜バージョンアップをしていく。

<共同代表 千葉>

## ○エントリー時の注意事項

- ・追加事項

エントリー時及び大会2週間前に日本に在住している人（招待選手は除く）

大会14日前までに新型コロナウイルスのワクチン接種（2回）を完了または大会開催日直前（スタート72時間以内）のPCR検査陰性を証明できること。

- ・中止となった場合、参加費の返金はしない。
- ・万が一中止になった場合はバーチャルレースを検討中。

## ○大会前の注意事項

- ・選手は、大会開催の2週間前から検温を実施し、記録したものを大会へ提出。
- ・大会開催日までの2週間以内に、発熱や体調不良、新型コロナウイルス感染症陽性の方との濃厚接触がある場合などの事項にあてはまる場合は出走を禁止する。

- ・レースを辞退する場合でも返金はしない。

#### ○大会前日・当日の注意事項

- ・受付会場や大会会場へのオフィシャルバスツアーバスの利用の前に検温を実施。
- ・選手のみならずボランティアも含める。2021年のガイドラインと同じ基準で行う。

#### ○競技中の注意事項

- ・競技中のマスク着用について

スタートエリア内における整列時～スタート時

エイドステーション内（飲食時を除く）

フィニッシュ後の会場内

上記以外の競技中は着用の義務はない。

- ・可能な限り間隔を空けて走ることを促す。

#### ○エイドステーションでの注意事項

昨年通り

#### ○応援者・私的サポーターへの注意事項

- ・詳細なガイドラインは後日発表

感染状況により事前にエントリー登録をしてゼッケン等で管理することを想定している。

ワクチン2回もしくは直前のPCR検査陰性証明ができるという同じ条件を出す。

#### ○大会中止・中断・コース変更の基準

- ・昨年は「緊急事態宣言が出た場合は中止を要請する」という内容だったが、「1.新型コロナウイルス感染拡大の影響により地元自治体からの※中止要請があった場合」と変更している。

※国や県からのに変更しました。

#### ○大会終了後の注意事項

- ・大会終了後2週間以内に、新型コロナウイルス感染症を発症した場合や発熱や咳など違和感があった場合は、必ず速やかに大会実行委員会に報告し濃厚接触者の有無等についても併せて報告する。

#### ○ボランティアスタッフについて

- ・ボランティアの参加は2週間前に日本に在住している人のみ。
- ・大会14日前までに新型コロナウイルスのワクチン接種（2回）を完了または大会開催日直前（スタート72時間以内）のPCR検査陰性を証明できることが参加の条件。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 斎藤様>

バーチャルレースは、新しい利用形態としてどんなものなのか。どのように実施されどのような方がどのくらい参加されたのか教えて頂きたい。

<共同代表 千葉>

携帯にアプリを入れGPSを計測しアップロードすると日時、場所、走行距離が記録される。バーチャルレースは期間内に設定された距離を走るとフィニッシュとなりコースを設定しているものとしていないものがある。VirtualUTMFではコースは設定せずに行った。場所の指定がないので世界中の方が参加できるが地域振興にはならない。コースを設定すれば大会会場に来て走ることができ地域振興になる。今回設定しなかったのは緊急事態宣言の中多くの方が来る可能性があり、企画をしたが直前で中止した。Virtual UTMF はStravaというアプリを使い世界146ヶ所の地域から27761名が参加した。完走者は全世界で2,758名うち2,546名が日本人。一週間以内に160 km 走った完走者にはアプリ上のデジタルバッジを差し上げた。一週間で100マイルという特異なチャレンジだが予想を越えて世界中の方々が参加した。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

国立公園の利用において地域にトレイルを利用してもらえる可能性がありそうだ。

<共同代表 千葉>

ありがとうございます。ぜひ環境省とStravaをお繋ぎしたい。

#### 【新コースについて】

(UTMF165kコースマップを参照)

##### ○変更点9ページ

富士急ハイランド・コニファーフォレスト (フィニッシュ会場・KAI69 k のスタート場所)

<変更前> 国道139号線→浅間神社→小倉山

<変更後> 林道→東富士五湖道路の側道の市道→富士吉田遊歩道→浅間神社

KAI69 k は遊歩道入口まで片側交通規制を行う。

小倉山→恩賜林(許可をいただく)→道の駅の裏→十字路(信号横断)→従来のコース(十字路から従来のコースへの道は現在工事中)

トレイルが増え選手にとっても良いコースになる。

選手が国道に出ないので一般の観光客の往来、交錯のリスクも軽減できる。

#### 【安全管理体制及びコースの迂回について】

(運営計画書18ページ参照)

##### ○組織図について

大会期間中組織図(予定)

- ・中止やコース変更ができるよう臨時実行委員会その下に開催・進行会議を設置。
- ・レースを運行している大会統括本部、運営統括と大会ドクターそして安全管理、競技進行、運営責任に分かれ運営をしている。(点線箇所)
- ・開催会議を大会の開催1週間前、3日前、1日前に行いコースの状況、現在の気候、将来的な気候が開催できる状況か毎回判断している。

○コースについて

- ・全コース踏査での調査を事前に行いコース状況の確認をして開催判断をしている。
- ・以下の区間は大会三日前にぬかるみによる歩道の影響がある場合や沢からの出水が予想される場合は迂回コースに変更、コースマップに反映されていないが例年通り

①天神山自然観察の森 静岡県富士宮市県営の公園

②富士宮市天子山地（天子ヶ岳～熊守山）

③富士宮市麓・根原地区

④中ノ倉山

⑤山伏峠付近

⑥杓子山

○エイドステーション・救護体制について

- ・エイドには原則医師が一部を除き常駐。

○通過人数について

- ・例年 UTMF の完走率は75%前後。全ての大会の通過人数を分析した結果、U6（KAI69kのスタート地点）では1900名まで減っており、U6で480名足したとしても全体のトレイルを走る最大人数は2400名のままとなる。最終的には2200名が富士急ハイランドまで到達すると思われる。

○通過人数・行方不明の特定

- ・エイドステーションで計測を行い確認。
- ・医療に関しても専門の福田医師の指導のもと安全な大会を心掛ける。

<日本野鳥の会 南富士支部 保護部 望月様>

富士宮市天神山自然観察の森の位置はどのあたりか。

<共同代表 千葉>

UTMF165kコースマップ5ページ目、上井出のブリヂストン工場を通過して西富士中に行く547mと書いてある箇所。

<富士山エコレンジャー連絡会 吉永様>

須山口登山歩道に並んで天子山稜は自然度が高く柔らかい。2015年、2016年、2019年に熊守山、2019年は端足峠含めて3日前に天気を読み切れなく結構荒れたと伺った。須山口でひどい状態になり、その後一生懸命保全活動をしてもらい大変感謝しているが原状回復できていない場所がある。天子山稜熊守山周辺、端足峠周辺も降雨時に利用するとかなり厳しい可能性があるがどのように今年改善しているのか。Stravaで2013年にコースとして使われた富士山の自然休養林がタイムトライアルのコースに設定され年間100を超える人が通過している。特に水ヶ塚から須山口登山歩道の1.5合目辺りは雨が多く従来の歩道が荒れ、そこを避けて誰がつけたかよく分からないピンクのテープが百本以上ついてストレートに道ができています。水道になりやすく迂回するところもどんどん侵食が進む。Stravaを使ったVirtualUTMFの話があったがしっかり使わないことを前提にお話をさせていただきたい。来訪者の方々に安全に歩いてもらい森を楽しんでいただけるようにしていきたい。



<共同代表 千葉>

2015、16年の須山に関してはコース自体を止めている。2015、16年は（大会を）9月に行ったが台風のため雨量が多く雨が止み一見大丈夫そうでもその時の含んだ水の量により多くの人数が走るとぬかるんでしまう。開催を春へと移動した。2019年の端足峠に関してはその先に竜ヶ岳があったが残念ながら2019年雨が強く降りトレイルに損傷を与えた。終了後すぐに約1か月間かけてボランティアで修復をした。少し雨が降るだけでトレイルが損傷しやすい特性があり2021年大会からコースを外している。

<富士山エコレンジャー連絡会 吉永様>

皆様のご尽力されていることはよく理解しており、竜ヶ岳を迂回するようにコースを設定したことも分かっている。けれども参加した選手がTwitterを通じて熊守山周辺は大変ドロドロ状態だったとか端足峠も同じようだったと発信している。それに対して三日前の判断でどうなのか。雨天の時に通らないよう迂回路を準備し大会が末永く継続していけるように行っていると理解している。ぜひ2022年は天候を読み間違えないようにご尽力頂きたい。

<共同代表 千葉>

ありがとうございます。肝に銘じて運営していきたい。二つ目の質問についてStravaには国立公園であっても地図が作れる機能がある。アプリ上で計測し一人で走っても記録がアップロードされランキングが出て競争ができる。本来走って欲しくない場所を防ぐ手立てがなく、これは私自身も問題だと思っている。UTMFの対応として地域振興のため普段は通っていいコースを4種類用意しているが公表していない。理由はUTMFのオフィシャルコースとなると多くの人に来たり悪天候でコースを荒らしたり、また路上駐車の問題が出てきた場合かえって軋轢を生んでしまう懸念があった。Stravaとはスポンサーの関係なのでこのようなお話をしっかり伝えていきたい。我々自身問題を認識しており慎重に取り組むでるとご理解いただければと思う。

<富士山エコレンジャー連絡会 吉永様>

了解しました。ありがとうございます。

**【自然環境に配慮した持続可能な大会運営のために】**

（運営計画書21ページを参照）

<共同代表 千葉>

○行動規範及び配慮事項

- ・持続可能な大会運営のための行動規範

大会は持続可能であり環境的にも文化的にも地域とも共存しなければならない。

倫理基準を守り社会的悪影響を最小に抑えていく。

社会的な公平さを大切にしていく。

環境保護と地域活性化をバランスよく両方促進し環境と地域文化を尊重。

再生できない資源の利用をできる限り減らす努力を行う。

（ペットボトルの利用を減らす、使わなくなったTシャツの回収、エイドの生ゴミは富士山クラブの方が引き取り肥料にする等）

環境における限界容量を認識し注意を払って環境を認識し継続的なモニタリングを行う。

大会を通じて直接的、間接的に富士山周辺の自然環境の保護、意識を変えていく。

- ・コース設定に関する自然環境への基本的な考え方

国立公園特別保護地区第1種特別地域それに準ずる自然環境を持つ場所は原則回避という原則を作ったことにより第1回からかなりコースが変わった。

部分的に通る場合はできる限り部分的に利用する。

事前のヒアリングを実施する。

コース設定に際して環境省が2015年に設定した「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取扱いについて」基準に則って行う。

- ・コース設定の際の配慮事項

走行に関して脆弱な場所（湿原、泥濘の箇所、高山植物の群落等）、激しい洗掘を受けている箇所、崩落の可能性がある箇所はコース設定しない。

歩道の複線化や拡幅が懸念される場所はコースを外さないように処置を行う。

- ・大会開催の際の配慮事項

利用者が多い場所はなるべく使わない。

開催日、コース、他の利用者への留意事項等をウェブ等で告知する。

歩道はみ出しの懸念がある箇所は追い越し禁止区間とする。

コース中トレイルの入口にはマットを置く。

ストックやポールは使用禁止。

ゴミ捨ての禁止など。

- ・その他の配慮事項

野鳥の繁殖時期を考慮して大会開催を実施する。

ぬかるみの可能性がある場合はコースの変更。

ツキノワグマがいると知った上での事前の準備。

歩道管理者、土地所有者、関係自治体等と事前調整を行う。

専門家の意見を聴取。

○モニタリング（環境影響モニタリング・利用影響モニタリング）

環境省の国立公園内で開催されるトレイルランニング大会等におけるモニタリングの手引きに基づいて継続的に行う。

- ・環境影響モニタリング

大会前後でコースの写真を撮りコース幅やコース高を測り変化を見る。問題がなくても毎年行う。

調査箇所 例年通り（天子ヶ岳から明神山）

コースが変更してもモニタリング調査の箇所が変わることはない。

10個のエリアで各エリア3~5箇所のポイントを設定。

- ・利用影響モニタリング

大会開催時にヒアリングを行う。(大会を知っていたか、大会開催を知ってきたのかそれとも知らなかったのか、トレイルランナーとトラブルがなかったかなど)

調査箇所 石割山神社駐車場、明神山パノラマ台、天上山山頂(2021年に設定)

ヒアリング事項の希望があれば出来る限り反映していく。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

(ウルトラトレイル・マウントフジコース周辺鳥類生息状況調査を画面共有)

山中湖側の三国峠付近鳥類調査は大会中止のため猛禽類調査のみ。

○クマタカ等猛禽類の生息状況調査を実施

2021年度は静岡県側で調査を実施した。2月と8月にそれぞれ3日、2月は4人、8月は3人で実施した。2回目の調査は6月に実施する予定であったが新型コロナウイルスの関係で6月は延期し先延ばしできないので緊急事態宣言だが8月に実施した。

保護上の観点から「生息状況調査」は割愛させていただきます。

<NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 三浦>

7月から新体制になり大会運営はUTMF共同事業体が担う形になりNPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部は一步引き、コース周辺のトレイル整備等を中心とした環境活動と富士山周辺のトレイルランニングの健全、普及を図る活動に特化していく。鳥類調査は継続していかなければ実態が分からないと思うので来年以降もNPOの方で継続していく。大会全体の中から調査費用を捻出していたが体制が変わりNPOの財源は寄付エントリーでいただく寄付金が活動資金になる。経済的な事情が許す範囲できちんとした調査を継続していく。

## (2) 質疑応答/その他

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 葉山様>

コース設定で国立公園特別保護地区その他についてできるだけルートを原則外すとあるがそれでよいのか。国立公園、特定公園、自然公園、自然環境の優先順位がヒエラルキーでランク付けされている。特別保護地域等は人が影響を及ぼさないという大原則があるがその中でトレイルランができるのか、どのように考えているのか環境省の方にお聞きしたい。「原則行わない」ではなく「行わない」としていただきたい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

現在のルートの認識としては特別保護地区とはいえ、ほとんど国道を走っている。特別保護地区を走ってはいけない趣旨としては原始的な自然の保全の観点だと思う。車道上走ることに関しては原則から外れていく部分と理解していいと思う。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 葉山様>

その辺を明確にしていきたい。既存の道路が特別保護地区の中に存在する場合にはやむを得ない、それ以外は原則を排除するのが基本だと思う。環境省の考え方をしっかりしていただきたい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

地域ごとに事情が違い、富士山だと登山競争は特別保護地区内を走っているが年中行事になっている。地域の理解だったりするのでそのあたり役所の文章的にぼかした表現になっているのはある程度しょうがない。その一方毅然と対応していかなければ自然破壊に繋がりがねない。肝に銘じなくてはいけないと思うのでそういったご意見ありがたい。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 葉山様>

ぜひ行政としてしっかりやっていただきたい。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

保護連盟の方に聞きたいが今の話を聞いてると随分期間も短く調査した箇所もすごい狭いが保護連盟としてこれで十分だと思われているか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

十分ではないと思う。実際に調査を本格的にやる場合であればもっと人数も日数もかけないといけない。業者に頼んだら1000万以上かかると言われたときいている。予算的限られている中で何をすれば保護という面でデータを提供できるか考えて行っている。これで十分なのかという答えに対しては、できるならばもっとやるべきだしこの調査で皆様が納得する結果が出るとは思っていない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

問題はああるけど強行する。金はないからそれでいいよ。そういうだけのことか。そう思えばいいのか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

私たちは委託されて調査しておりボランティアではない。外部委託しなければいけない現状のなか日本野鳥保護連盟が協力してできることをやっている。お金がないからそれでいいのかと言われてれば私的にはどうしようもない。ボランティアでやる話であれば地元の人たちが立ち上がって調査に入りデータをここにあげるべきだと思う。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

保護連盟としてこれ以上はできない、お金が出ないからこれで限度だと思えばいいのか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

日本全国全て自分たちで行って調査することはできないのでそう思って頂いて構わない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

わかりました。調査に必要なことはお金がないからしなかった、これでいいということではない。お金がないからコースを設定していいかどうかの判断ができないまま強行すると、そういうことか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

私たちは限られた予算の中でデータを提供している立場なので足りないのであれば皆さんにやっていただきたい。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

連盟の方が必要なことを全部していない。お金がないからボランティアでできないからしょうがないから走るのはいんじゃないの、そういうことか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

そんなことは言っていない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

理解力がない。保護連盟が局部的にすごい狭い期間の中でしか調べてない。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

質問の意図が分からない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

十分な調査をしていない。できませんでした、ということか。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

十分な調査ができませんでした、ではなく限られた予算の中での調査が質問に対しての答えとして十分ではないという話をしただけ。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

分かりました。

<日本野鳥の会 南富士支部 保護部 望月様>

調査を昨年と今年行っていただきありがたい。長期的、継続的な調査は有用性が非常にあるので出来る範囲で進めていただきたい。オオタカやクマタカ等象徴的な野鳥の調査だがその時期はその他の種の繁殖期でもある。なかなか範囲は広げられないと思うが環境に配慮しこの大会を持続的に行うならばその辺も念頭に入れていただきたい。

<NPO 富士トレイルランナーズクラブ 三浦>

限られた予算の中でより良い調査を継続していきたい。寄付エントリーからの寄付が我々の財源になっていく。大会が健全に発展することが我々の活動の活性に繋がると思う。ご支援いただきながら長くこの調査を継続していきたい。

<ネイチャーナビ 秋元様>

お金をもらっている方の理屈と説明は理解できた。大変な努力の中に行っていると認めている。運営計画書10ページの6番、11ページ7番を厳格に行っていると説明していたが最初から私たちが疑問を

提示している夜間2,400名の人が走ることに自然に与える影響、動物に与える影響についての答えを頂いていない。前向きにどのように対応しているか。

<共同代表 千葉>

UTMFは20数大会の世界に仲間がいる国際大会。同じように夜を徹してレースを行っている。現在ウルトラトレイルは日本だけではなくアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オーストラリア、オセアニアで行っている。年に1回フランスのシャモニーに集まり会議を行い、そこで「日本では野鳥も含め夜間、動物のことも含め大きな環境問題になっているが同じような問題があるか」と質問をした。世界中の国立公園や世界有数の環境が良い所で行っているが夜間の影響があるのか議論ができていない。夜間走ることへの選手への安全性と野鳥も含めた問題が最低限に抑えられるのか日本国内だけではなく世界中の方々にも耳を傾けている。残念ながら皆さんが納得するような形で夜間や野鳥に関する影響に関しての情報はない。会話を続けることにより持続可能な大会を目指していきたい。

<ネイチャーナビ 秋元様>

この会合に参加者の代表、ボランティアの代表一人ずつ出ただけであれば私達がいかに反対の立場を取っているか理解していただけたらと思う。ぜひお呼びいただきたい。

<共同代表 千葉>

ライブやYouTube等で情報公開しても構わない。より良い全体説明会になるようにしたい。ご意見として承ります。

<ネイチャーナビ 秋元様>

そのようなことでありながら議事録に反対の強硬な意見が載らない。これは載せない方がいいなど指示を出しているのか。

<共同代表 千葉>

指示は出していない。私が校閲をすることは一回もなくスタッフが録音したもので作成している。外れていたところがあれば我々のミスである。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

それはだめ。2回もあった。私もそうだし秋元さんもそう。修正まで出したではないか。他の人に出していた。修正すればいいものではない、修正なんて誰も見ない。我々が言ったやばい部分だけ削除してあった。

<共同代表 千葉>

そのような意図は全くない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

口では言える。信用できないから困っている。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

私の立場で言うのも微妙ですが、野鳥に関しては藤井さんの話は本質だと思う。最初に共催の話を伺ったのもその観点で、自治体が地域振興の分脈と自然保護の分脈と両方当然召還している行政としてある部分もあり、鳥獣保護行政に関しては国が召還している部分と都道府県におりている基礎自治体にまで降りてくる部分もあるので地域としてどういうバランス感覚でやっていくのか地方自治体一定の考え及び責任だと思う。困ったら環境省に投げられる側面もあるが地域の一大行事に対してどういうスタンスで行政が調整するのか自治体の方々に真剣に考えていく必要がある。それぞれの立場で言っても平行線をたどっている。もっと建設的な議論をしないといけない。NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部は指摘した部分のフィードバックをいただいたり地域のトレイルのために頑張っていたいたり歩み寄りしている。一緒により良い国立公園を作っていくため歩み寄っていかないと生産性がない話になる。関係者一同同じベクトルを向いていく事が大事であり、そういう方向で今後やっていけたらと思う。

<富士山西麓観光資源”輝き”協議会 会長 赤池様>

本栖湖で観光事業をやっている。UTMFの皆さんとトレイルの整備をしており環境省の働きかけもありできるだけ今後富士山周辺を広げていければと思う。やはり人が歩くと痛む。1回直せばいいものではなく継続していかなければならない。行政が挟まり難しいところもあるが自分たちが走るトレイルだけではなく整備活動を広げていければと思う。参加している選手の皆さんにも啓蒙していただきたい。

<ネイチャーナビ 秋元様>

UTMFはきちんとやっているという感じはする。道路にペイントで何kmポストと平気でスプレーするマラソン大会がある。それに比べるとUTMFはとてもしっかりとしている。そういうことに関してはいい大会だと思っており全部が反対というわけではない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

鳥の繁殖期に走るのはやめていただきたいとずっと言っている。それはいくら私が言っても時期を外すことはできないのか。

<共同代表 千葉>

開催時期に関しては毎回例外なく検討しているが今のところこの時期にしかできない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

そうなる意見と言っても無駄だから意見を言うなということになる。

<共同代表 千葉>

そのようなことは一度も言っていない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

結果的にそういうこと。この時期野鳥が繁殖時期である。環境庁から自然公園指導員を委任されている。この時期はとても多くの小鳥たちが繁殖している。特別な種類ではなくお役人様が守ろうと

決めた鳥ではない。公園利用者がすごく喜ぶ鳥たち。この鳥たちの繁殖にすごく影響がある。あなたの言ったことを確認したくて見に行きたいと言った人がいる。うちに来て教えてあげると言ったが結局見に来なかった。希少種とはすごい大事な鳥でお役人が守ろうと決め、守るべきだがそれに対して中途半端、中途半端どころじゃない。自然公園の中にある普通の鳥は道路脇の歩道が多い。普段ハイカーが通ったときは親が行かなきゃいいのだが2日に渡って2400人と多くの人を通る。卵が冷えて雛に餌を与えられず多くの鳥が死ぬことが分かっている。保護連盟の方も理解していると思う。長い期間長い時間多くの人数が通る影響はものすごい。一番大事にしないでいけないのは多くの人を楽しむ身近な鳥である。それは考慮されないのか。自分たちが走りたいからそれは無視している。鳥の好きな人間として小鳥たちになり代わってあなたたちをいじめるくらいしか他に方法がない。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

野鳥にとって人がいない方がいいとなると行政としては法的な規制等に触れない限り手を出せない。手を出してほしいのであれば法律を変える、国会に働きかける、そういう話になってしまう。市町村のコンセプトとしてこういう位置付けでこういうことはやめてほしいと地域としての意識醸成をしていかなければならない。現状そのバランスを考えて通っている。半場さんの懸念は分かるがそれを言うと極論だが富士五湖には人が住めなくなってしまう。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

そういうことは言っていない。時期を外してほしいと言っている。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

時期を外せないとなったとき法的な拘束力を持って駄目だとはできない。それを地域で行ってほしいのであれば条例を定めればいいが地元住民から明らかな生態系の影響が出てきたとする議論がまだその段階になっていない以上そこを覆す強制力はない。公務員の立場からしたら法律や条令に結びついた部分でないと言えない。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

環境省が役に立たないことは知っている。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

では自然公園指導員を名乗らないほうが良いのでは。

<環境省 希少野生動植物種保存推進員 半場様>

自然公園を利用している人たちのために言っている。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

こちらも利用している方々なのでどうして配慮しないといけないのかロジックが全く立たない。私は両方のバランスをより良くやっという話をしたい。半場さんの喧嘩を聞きに来ているわけではないので履き違えないでいただきたい。



<NPO 富士トレイルランナーズクラブ理事 中尾>

今私は三陸復興のランニングレースをするために岩手県の大船渡市に移住し準備活動をしている。半場さんの現場に見に行かなかったのは私のこと。大変申し訳なく思っている。行政と国の環境省の方と現場にいる地元の方々が本音で話し合う場はすごく貴重である。国立公園の中でコースを作るため岩手県の環境省の方と宮古市、釜石市、地方自治体の皆さんと一緒に準備をしているがなかなか難しい。UTMFは日本を代表するレースであり参考になる大会である。コミュニケーションの場を大切にしていってほしい。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 葉山様>

自然環境に対しての影響を科学的に検証することは非常に難しい。鳥類に対してどういう影響を及ぼすかはコース上の繁殖個体それぞれのテリトリーに対してどうなっているかを踏まえないと本質的に明確にはいえないと思う。トレイルランニングの詳細は分からないがどの程度の時間ランニングの方たちが通るのか繁殖している個体達に影響しているのかを勘案して判断しなければいけない。単純に通ってはいけない。それは自然に大きい影響を与えると考えられるが、大きい影響自体が分かっていないレベルでの発言だと私は認識している。2日程、繁殖個体のテリトリーを回っている中でディスターブがあっても大きく影響しないと思われる。トレイルランニングをしている中で猛禽類は除いてその他の小鳥類が繁殖に対してディスターブをどのくらい受けるかはなかなか言えない。そういう調査を予算の中でしていただければやっていただきたい。科学的なベースを踏まえて議論するのではなく、そうではない視点で問題だというのは不適切だと思う。環境省も行政としての話をしたが違うのではないかと。地域を踏まえて行政として対応して欲しい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

偏った発言になり大変申し訳ない。環境省だけのリソースだけでなく地域行事として自然保護との両立を考えた上でのモニタリングや葉山さんのお話に関し、行政が共催で入っているので県の調査要因、ボランティアを募るなど必要なモニタリングをUTMF側だけが行うのではなく行政としてもサポートしようと話すことが本来あるべき姿だが今までその議論も全くされていない。地域のあり方の議論をしっかり詰めていくべき。行政の縦割り以上のことを私は全くしないということではない。各行政がしっかり考えるべきだと思っているので誤解を招いたことは申し訳ない。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 葉山様>

環境省も是非助成金を支給していただければと思う。私もランニングをしているので走る人の心意気は十分理解している。自然環境との共存をしていただきたい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官 齋藤様>

地元で貢献できないか話を頂き環境省の誘客ワーケーション推進事業の補助金をNPO法人富士トレイルランナーズクラブにとっていただいた。地域にリソースやボランティアを募るコネがありいいものが出来上がったりしている。引き続きサポートできる範囲でやっていきたい。

<NPO 法人富士トレイルランナーズクラブ 三浦>

葉山さんの指摘通り科学的なデータに基づいて議論を深めていくのが正しい姿だとは思う。限られた財源ではあるができる限り調査に着手できればと思う。今この段階で何ができるかお話しするの

は難しいが試算をして足りない部分は齋藤さんから案内があった環境省さんの補助金や他団体で助成金を集めて科学的なデータを蓄積していきたい。

<公益財団法人 日本野鳥保護連盟 藤井様>

NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部でお金を捻出して調査計画を立てたとしても葉山さんが言われた科学的なものを出すには限界がある。仮に出るとしても10年20年先になる。希少種に限らず色々な野鳥が知らないところで影響を受けているかもしれない。鳥たちのために何かしてあげなければいけないのはそこで暮らす人間のひとつの義務だと思う。周辺の自然を大切にしたい気持ちが強くあるなら地元の人たちが立ち上がって調査をして科学的データを蓄積して議論ができる努力をしていただきたい。やり方を相談する話であれば連盟でも野鳥の会でも強者がいますのでご協力ができる。自然を保護することは組織の一人がやるものではなく地元の人たちが立ち上がらないとできないものだと思う。自然保護運動をしてはじめて日本全国の自然が守られると思うのでそこをご検討いただけたらと思う。

<共同代表 福田>

コロナ禍で一年半以上、非常に厳しい時代が続いております。本業は医者ですのでコロナ対策とワクチン接種等いろいろな役目を負っています。そうした中ですが時々山に整備に行きます。山で汗を流す時間は本当に素晴らしいと思います。環境省の方とタッグを組みボランティアにたくさん来ていただき良い登山道が出来ました。体力のあるトレイルランナーが集まるとこんなことができるんだなと思いました。富士山周辺の自然を守っていくことをトレイルランというスポーツを通じてできると思います。いただきましたたくさんの意見すべて我々全部受け止めて少しでも良い形でU-TMF 2022を開催していこうと思いますので引き続きよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

以上

議事録作成：ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会  
事務局 佐藤和